

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成24年8月

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会

目

次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	2
	（1）評価基準	2
	（2）評価の手法	2
6	評価結果	3
	（1）総合的な評定	3
	（2）年度計画の各項目ごとの評定	4
	1. 診療計画及び診療に関する重点事項	4
	2. 施設設備整備	5
	3. 患者数の見込みと収支計画	5
	4. その他業務運営に関する重要事項	6
	（3）地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等	6
	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成23年度業務実績に関する評価基準	7
	参考資料 平成23年度実績に関する評価（項目別評価シート）	8

1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等
- | | |
|-----|---------------------|
| 名 称 | 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 |
| 代 表 | 理事長 栗谷 義樹 |
| 住 所 | 山形県酒田市あきほ町30番地 |
- (2) 設立年月日 平成20年4月1日
- (3) 設立団体 山形県及び酒田市
- (4) 資本金の額 8,745,712,678円(平成23年9月28日変更登記時)
- (5) 中期目標の期間 平成20年度から平成23年度(4年間)
- (6) 目的及び業務

ア 目的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第28条

3 評価の対象

平成23年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、庄内地域における中核病院である日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センターの運営を行うにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の効率化等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会

委員名	氏名	役職等
委員長	嘉山孝正	山形大学長特別補佐・重粒子線がん治療施設設置準備室長
副委員長	大内憲明	東北大学医学部長
委員	片桐晃子	NPO法人にこっと理事長
委員	佐藤正一	日本公認会計士協会山形県会
委員	本間清和	山形県医師会（酒田地区医師会長）
委員	大野省太郎	酒田商工会議所副会頭 （東北電機鉄工株式会社 代表取締役社長）

（委員名順：順不同）

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

病院機構平成23年度業務実績に関する評価基準。（別紙のとおり）

(2) 評価の手法

病院機構の自己評価結果を含めて聴取し、これをもとに評価する。

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、病院機構より提出された、平成23年度計画に係る事業報告書及び評価基準により自己評定した結果について、適正な評価であると認め、総合的には「非常に優れている」ものとして評価する。

平成23年度は、地方独立行政法人設立後4年度目、第1期中期目標期間の最終年度となるが、これまで行われてきた医療機能の集約と再編等により、引き続き効率的な業務運営が行われており、また全国的にも地方独立行政法人化による病院統合という点で、非常に優秀なモデルケースとして評価されている。

施設、設備等の面では、平成23年4月1日より日本海総合病院において、救命救急センター及び酒田地区広域行政組合の救急ワークステーションが稼働し、平成24年度に稼働のPET/CT棟の増築工事も完了し、駐車場の整備も行われている。一方、酒田医療センターについては、増築・改修工事に着手し、平成24年度の工事完了に向け、整備が進められている。

財務内容については、設立初年度より4年間、引き続き黒字決算を計上。急性期病院である日本海総合病院では平均在院日数の短縮が引き続き行われ、実入院患者数の増、平成21年度よりDPCを導入したこと等による診療単価の増などにより、病院機構全体においても中期計画全体の目標である経常収支比率100%以上が引き続き達成されている。

来院者の利便性向上については、自動再来受付機をエントランスホールに1台、救命救急センター入口に2台増設するなど、一定の取り組みがなされている。

職員配置、就労環境の整備の面では、2病院間の医療機能の集約・再編による弾力的な人員配置を行っていること、院内保育所の定員増や病児・病後児保育の開始、業務改善委員会によるスピード感のある改善と専門職種間の連携強化に努めたこと、院内研修等の実施により、医師や看護師等の専門技能の向上に取り組んだこと、緩和ケア認定看護師等の養成、医師や看護師の負担軽減を図るためにクラークや看護補助者を配置するなど、優れたスタッフの確保と業務負担軽減についても、引き続き積極的な取り組みが見られるところである。

在宅介護支援及び療養支援の面でも、病院内に地域医療室と称する相談窓口が設置されており、また、「ちょうかいネット」の活用により他の医療機関等との連携の面で大きく効果を上げている。

以上、全体として、病院機構が病院の統合再編、法人化のメリットを活かし、これまで2つの病院が培ってきた診療科目等における特色・強みを打ち出している状況が十分見受けられ、平成23年度計画に対する業務の実績については引き続き良好であり、病院機構の業務運営に対する努力については、評価委員会としては非常に高く評価するものである。

(2) 年度計画の各項目ごとの評定

評価委員会では、病院機構側の自己評定をもとに、以下の52項目について評価を行った結果、評価Sが7項目、評価Aが44項目、評価Bが1項目という評価結果とした。評価S、評価Aの項目が大幅に増となっている。

1. 診療計画及び診療に関する重点事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

独立行政法人設立初年度に引き続き、2病院の診療科目の統合などによる医療機能の集約と再編等により、効率的な業務運営がなされている。また、独立行政法人化によるメリットを最大限生かした、着実に期待以上の成果が見受けられる。

ウ 評価した項目

①項目数

43項目 【評価 S：4、A：38、B：1】

②特筆すべき項目

- ・ 日本海総合病院においては、平成23年4月より日本海総合病院において救命救急センター及び救急ワークステーションがオープンし、4年間において計画されていたすべての機能が平成23年度当初から稼働している。
- ・ 医療機能の集約と再編等により、効率的な業務運営がなされ、引き続き経営の効率化、健全な病院経営に対する取り組みが行われている。
- ・ 様々な業務改善などを実施するとともに医師事務補助のクラークや看護補助者の配置を拡大し、医師や看護師などの業務の負担軽減を引き続き図っている。
- ・ 電子カルテをベースとした院内クリティカルパスについては、適応率が41.3%と目標としていた適応率40%を達成した。
- ・ 他の地域医療機関との役割分担と連携の強化、地域連携クリティカルパスの整備普及のため、地域医療情報ネットワーク（「ちようかいネット」）が稼働している。

2. 施設設備整備

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

日本海総合病院において、平成24年度に稼働のPET/CT棟の増築工事が完了し、酒田医療センターの増築・改修工事が進められている。高度医療機器の計画的な更新・整備も継続的に行われている。

ウ 評価した項目

① 項目数

2項目 【評価 A：2】

②特筆すべき項目

- ・ 日本海総合病院において、平成24年度に稼働のPET/CT棟の増築工事が完了した。
- ・ 酒田医療センターにおいては、増築・改修工事に着手。工事期間中は解体前の病棟を療養病棟として活用し、入院治療を行っている。

3. 患者数の見込みと収支計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

2つの病院を合算した延入院患者数、実入院患者数、延外来患者数も前の年度より増加している。また、平成23年度も引き続き黒字決算を達成。営業損益段階でも黒字であり、また、経常収支比率100%以上を達成するなど、引き続き経営管理指標の改善が図られ、財務内容についても良好である。

ウ 評価した項目

①項目数

3項目 【評価 S：2、A：1】

②特筆すべき項目

- ・ 単年度収支において黒字を計上、営業損益でも引き続き黒字を計上している。
- ・ 経常収支比率（経常収益／経常費用）100%以上を達成。昨年度の101.4%を上回っている。（102.4%）
- ・ 人件費・材料費・経費の営業収益比率とも全国の500床以上の自治体黒字病院の平均値以下を達成した。

4. その他業務運営に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

法人の運営体制については、計画どおり、2つの病院における弾力的な人員配置が行われた。また、診療科の集約に合わせて弾力的な人員配置を行うとともに、業務改善委員会を立ち上げさまざまな意見を業務の改善に反映されたことなどにより、業務の改善・効率化が進んでいる。また、院内保育所の24時間対応を継続、入所定員の増、病児・病後児保育を開始するなど、就労環境の整備が進んでいる。

また、教育部門を酒田市より受託している酒田市立酒田看護専門学校への支援として、日本海総合病院看護教務部の職員を「酒田看護専門学校」の教員として常駐させ、また、看護教員の養成にも務めている。

ウ 評価した項目

①項目数

4項目【評価 S：1、A：3】

②特筆すべき項目

- ・ 院内保育所については24時間保育を継続し、入所定員の増員を行った。また、病児・病後児保育も開始され、引き続き就労環境の整備が進んでいる。
- ・ 酒田市立酒田看護専門学校への支援として、日本海総合病院看護教務部の職員を「酒田看護専門学校」の教員として常駐させ、また、看護教員の養成にも務めている。

(3) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等

な し

【別紙】

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成23年度業務実績に関する評価基準

1 平成23年度業務の実績に関する評価の基本方針

平成23年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構年度計画について、その実施状況を調査・分析し、業務の実績について評価を行なう。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行なう「項目別評価」と「業務実績全体の状況について行なう全体評価」の2つを併せて行なうものとする。

(1) 項目別評価 項目別評価シート

①業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。

- ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する
- ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する

②判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する。

(判定基準)

「S」 : 計画を大幅に上回っている

「A」 : 計画を上回っている

「B」 : 計画に概ね合致している

「C」 : 計画をやや下回っている

「D」 : 計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

平成 23 年度実績に関する評価

(項目別評価シート)

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価	委員会評価及び意見等
1 診療計画及び診療に関する重点事項				
(1) 診療計画				
<p>平成23年度は、第1期中期計画の最終年となることから、診療計画についても中期計画で予定していた内容について再点検し、総仕上げを行うことになる。</p> <p>平成22年度に増築・改修工事が完成した日本海総合病院は、地域の中核病院として急性期医療の充実に努めるとともに、日本海総合病院酒田医療センター（以下「酒田医療センター」という。）においては、療養病床等の施設整備を本格化し、増築・改修工事が着手されることになる。</p> <p>日本海総合病院では、4月1日に「救命救急センター」を開設し、これまで空白地域であった庄内地域、最上地域の一部を範囲とする3次救急医療体制を強化することに伴い人員体制等に万全を期すとともに、その運営体制についても十分配慮する。</p> <p>酒田医療センターにおいては、平成22年度中に日本海総合病院への診療科の移行が行われ、療養病床への転換が行われたが、地域課題である回復期リハビリテーションへの取り組み、デイケアへの取り組みなどを実行するため、増築・改修に取り掛かり地域の医療機能の向上を着実に推進するものとする。</p>	<p>平成23年度は、第1期中期計画の最終年のため、診療計画についても中期計画で予定していた内容について再点検し、総仕上げを行った。</p> <p>平成22年度に増築・改修工事が完成した日本海総合病院は、地域の中核病院として急性期医療の充実に努めるとともに、酒田医療センターにおいては、療養病床等の増築・改修工事に着手した。</p> <p>日本海総合病院では、平成23年4月1日に「救命救急センター」を開設し、これまで空白地域であった庄内地域、最上地域の一部を範囲とする3次救急医療体制を強化することに伴い人員体制等を整備した。</p> <p>酒田医療センターにおいては、平成22年度中に日本海総合病院への診療科の移行が行われ、療養病床への転換を行った。また、地域の医療機能の向上を着実に推進するため、回復期リハビリテーションへの取り組み、デイケアへの取り組みなどを行った。</p>	<p>◆酒田医療センターにおいて、療養病床等の増築・改修工事に着手したか。回復期リハビリテーションへの取り組み、デイケアへの取り組みを行ったか。</p> <p>◆日本海総合病院において、救命救急センターを開設し、3次救急医療体制を強化するため、人員体制を整備したか。</p>	<p>A</p> <p>▼酒田医療センターにおいて、増築・改修工事に着手した。また回復期リハビリテーションへの取り組み、デイケアを行うための検討を始めた。</p> <p>▼日本海総合病院においては、救命救急センターの開設に伴い、3次救急医療体制の強化のため、人員体制を整備した。</p>	<p>A</p> <p>・自己評価のとおり</p>
①日本海総合病院の体制				
<p>日本海総合病院の機能</p> <p>規模：646床</p> <p>診療科：25科（内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科）</p> <p>併設診療機能：救命救急センター</p> <p>特殊診療機能：ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室）、未熟児室、感染症病床、放射線治療、外来がん化学療法、セカンドオピニオン外来、緩和ケア、人工透析（急性期）、人間ドック、地域医療室（地域連携、在宅療養支援など）</p> <p>その他：屋上ヘリポート設置、病院間移動用ワゴン車、院内保育所</p>	<p>日本海総合病院の機能</p> <p>規模：646床</p> <p>診療科：25科（内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科）</p> <p>併設診療機能：救命救急センター</p> <p>特殊診療機能：ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室）、未熟児室、感染症病床、放射線治療、外来がん化学療法、セカンドオピニオン外来、緩和ケア、人工透析（急性期）、人間ドック、地域医療室（地域連携、在宅療養支援など）</p> <p>その他：屋上ヘリポート、院内保育所（病児・病後児保育機能）、重症心身障がい児(者)短期入所</p>	<p>◆救命救急センターを開設し、計画されていたすべての機能が整備され、フルオープンすることができたか。</p>	<p>S</p> <p>▼平成23年4月1日に救命救急センターがオープンし、計画されていたすべての機能が稼働した。</p>	<p>S</p> <p>・自己評価のとおり</p>
②酒田医療センターの体制				
<p>平成23年度は、療養病床としての機能拡充のための増築・改修工事に着手することになる。平成24年度の施設整備完了までは暫定的に西棟を療養病棟として活用する。</p> <p>酒田医療センターの機能</p> <p>規模：114床</p> <p>診療科：2科（内科、リハビリテーション科）</p> <p>特殊診療機能：地域医療室（地域連携、在宅療養支援など）</p> <p>その他：病院間移動用ワゴン車</p>	<p>平成23年度は、療養病床としての機能拡充のための増築・改修工事に着手した。平成24年度の施設整備完了までは暫定的に西棟を療養病棟として活用する。</p> <p>酒田医療センターの機能</p> <p>規模：114床</p> <p>診療科：2科（内科、リハビリテーション科）</p> <p>特殊診療機能：地域医療室（地域連携、在宅療養支援など）</p> <p>その他：病院間移動用ワゴン車</p>	<p>◆酒田医療センターの増築・改修工事が、計画的に着手されたか。</p>	<p>A</p> <p>▼酒田医療センターの増築・改修工事に着手した。東日本大震災に関連して材料調達に影響があったため、工期に遅れが生じたが、平成24年度の施設整備完了には影響のない見込みである。</p> <p>▼工事の間、西4および西5病棟を療養病棟として活用し、入院治療を行った。</p>	<p>A</p> <p>・自己評価のとおり</p>

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定	判定		
(2) 診療に関する重点事項						
①診療体制の整備						
医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成23年度において、次のとおり診療部門の充実及び見直しを行う。						
a) 救急医療						
・日本海総合病院救命救急センターの開設(4月)	●平成23年4月1日に日本海総合病院救命救急センターを開設した。 ・平成23年度は、延べ23,856名の患者が受診した。	◆日本海総合病院救命救急センターが平成23年4月に開設できたか。	A	▼救命救急センターの開設により、3次救急医療体制が整い、地域に充実した高度な医療提供を実現した。	A	・自己評価のとおり
・日本海総合病院における酒田地区医師会医師の協力による小児救急外来に対する診療支援の継続と新たに酒田市の財政支援のもと、酒田地区医師会との協議に基づき地区医師会の協力による平日夜間の救急外来における成人系の救急外来に対する診療支援の拡大実施(4月から)	●日本海総合病院において、酒田地区医師会の協力による小児救急外来に対する診療支援の継続と、平成23年4月からは成人系の救急外来に対する診療支援が行われた。 ・平成23年度は、小児救急外来診療支援として延べ830名の患者に、成人系の救急外来に対する診療支援として延べ1,914名の患者に実施された。	◆小児救急外来に対する、酒田地区医師会による診療支援が継続されているか。 ◆平日夜間救急外来において、酒田地区医師会による成人系の診療支援が行われたか。	S	▼酒田地区医師会と協力体制を構築し、役割分担することにより、充実した小児医療または救急医療を提供することができた。 ▼日本海総合病院の医師は、2次救急以上の患者に専念することができ、地域の救急医療体制の強化に繋がった。	S	・自己評価のとおり
・酒田地区広域行政組合の救急ワークステーションの開設(4月)	●平成23年4月1日、酒田地区広域行政組合の「酒田救急ワークステーション」が設置された。	◆酒田地区広域行政組合の救急ワークステーションが、平成23年4月に開設されたか。	A	▼計画通りに設置され、平成23年4月1日の救命センターの開設と同時に運用開始した。	A	・自己評価のとおり
b) がん医療						
・地域がん診療連携拠点病院として、がん登録機能、相談支援体制の充実	●地域がん診療連携拠点病院として、がん登録機能、相談支援体制の充実を図った。 ・平成21年度から、がん相談員として専従の看護師が配置されている。平成23年度は、社会福祉士1名が「相談支援センター相談員基礎研修(3)」を受講し、がん相談員を3名体制とした。 ・平成23年度の相談件数は、延べ934件だった。	◆がん登録機能が充実されたか。 ◆相談支援体制が充実されたか。	A	▼2名の診療情報管理士(臨時職員及び委託社員)により院内がん登録を行い、国立がんセンターに継続してデータを提出し、地域がん診療連携拠点病院としての機能を果たしてきた。 ▼これまで、がん相談員は2名の看護師であったが、相談内容の多様化に対応するため、社会福祉士を相談員として養成し、体制の充実を図ることができた。	A	・自己評価のとおり
・PET/CTの新設のための増築工事の開始	●PET/CTの新設のための増築工事を行った。	◆計画通りに増築工事を行ったか。	A	▼年度末までに増築工事が完了し、機器の導入に向けて準備を行った。	A	・自己評価のとおり
・外来がん化学療法の充実	●外来がん化学療法の充実 ・平成23年度は、日本海総合病院で延べ3,896名の患者に行った。	◆外来がん化学療法の充実がなされているか。	A	▼実施件数が、年々増加傾向にある。認定看護師を中心とした体制および充実した設備により、がん患者のQOLを考慮した治療を提供することができた。	A	・自己評価のとおり
・緩和ケア医療の充実	●緩和ケア医療の充実 ・平成20年度から緩和ケアチームに緩和ケア認定看護師を専従として配置し、毎週1回の緩和ケアチームカンファレンスと病棟回診を定着させ、いつでも相談が受けられる体制を整えた。 平成23年度から回診を週3回とし、延べ383名の患者に行った。また、緩和ケア外来の診察時間を平成21年度から拡大した。平成23年度の実施件数は延べ100名であった。	◆緩和ケア医療の充実がなされているか。	A	▼認定看護師を配置し、緩和ケアチームで積極的に患者に関わった。人員的体制およびケア提供体制の充実を図り、患者の身体的または精神的苦痛の緩和に努め、QOLを考慮した治療とケアを提供することができた。	A	・自己評価のとおり
・セカンドオピニオン外来の充実	●セカンドオピニオン外来の充実 ・日本海総合病院における平成23年度の相談件数は、2件(がん2件)であった。	◆セカンドオピニオン外来の充実がなされているか。	A	▼相談件数は減少したが、専門の医師と看護師が懇切丁寧な説明と相談にあたり、充実した内容となっている。	A	・自己評価のとおり
c) 脳卒中・急性心筋梗塞						
・専門的医療やCT・MRI検査の24時間対応	●専門的医療やCT・MRI検査の24時間対応 ・日本海総合病院における平成23年度の実施件数は、CTが25,512件、MRIが8,351件であった。	◆脳卒中・急性心筋梗塞に対する専門的医療やCT・MRI検査の24時間対応は実施されているか。	A	▼CT・MRI検査の24時間対応により、TPAやPCIなど、緊急治療や手術など適切に対応することができた。	A	・自己評価のとおり
・急性期リハビリテーションの充実	●急性期リハビリテーションの充実 ・平成21年度から届出していた心大血管リハビリテーション料Iについて、より充実したリハビリテーションが行えるよう、人員体制及び機器の整備を行った。	◆急性期リハビリテーションは充実されているか。	A	▼人員体制及び機器を整備し、早い段階からリハビリテーションを行い、患者のQOLが低下しないように努めた。	A	・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定			
d) 糖尿病						
・チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療の充実	●チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療を行った。 ・平成23年度は、79名の患者の集中的治療を行った。	◆糖尿病に対して、チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた、教育入院等の集中的治療の充実がなされているか。	A	▼それぞれの職種が、それぞれの分野から患者にアプローチし、患者が血糖値コントロールのための自己注射の必要性、糖尿病による合併症併発の危険性、予防などを理解し退院させることができた。	A	・自己評価のとおり
e) 在宅医療支援及び療養支援						
・地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するための窓口・相談機能の充実	●在宅医療支援及び地域の介護・福祉・医療の各機関との連携を強化するため、日本海総合病院の地域医療室は8人体制(内1名は臨時職員)、酒田医療センターは4名体制で、訪問看護、退院調整および入院前面談等を実施した。 ・日本海総合病院で、他病院へ874名、在宅へ502名、介護老人保健施設へ73名、特別養護老人ホームへ164名、ショートステイへ127名、有料老人ホームへ78名、その他81名、合計1,899名の退院調整を行った。 ・酒田医療センターで、他病院へ32名、在宅へ113名、介護老人保健施設へ47名、特別養護老人ホームへ10名、ショートステイへ9名、有料老人ホームへ9名、その他9名、合計229名の退院調整を行った。 ・酒田医療センターでは延べ374件の入院前面談を行い、365名が入院した。	◆在宅医療支援及び地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するため窓口・相談機能が充実されているか。	A	▼職員体制の充実はもとより、地域の介護機関、福祉機関、医療機関との信頼関係を築くため、協議会など連絡体制を整備し、積極的に情報交換を行った。その結果、退院調整件数の増加につながった。	A	・自己評価のとおり
f) その他						
・2病院内で診療科の移行が完了するまでの間、複数診療科を受診する患者の利便性確保のため運行してきた患者移動用ワゴン車「げんき号」については、引き続き酒田医療センターの療養病床への患者移行も行われること等を考慮して、平成23年度は継続して運行する。ただし、運行回数等は再検討をする。	●患者の利便性確保のため運行してきた患者移動用ワゴン車「げんき号」については、平成23年度も継続して運行した。	◆患者の利便性は確保されているか。	A	▼酒田医療センター入院中の患者が、日本海総合病院を受診する際に利用された。患者の利便性を確保した。	A	・自己評価のとおり
②災害時における協力						
・災害時には、災害拠点病院として患者を受け入れるとともに、県の要請に基づき、又は自ら必要と認めたときは、DMAT(災害派遣医療チーム)等、医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を実施する。	●災害時には、災害拠点病院として患者の受け入れを行った。 ●医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を行った。 ・平成23年度の医療救護活動の実績は、東日本大震災の被災地または避難先へ、延べ15日、合計20人の日本海総合病院の職員を派遣した。	◆災害時には、災害拠点病院として患者を受け入れ、または医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を行ったか。	A	▼平成23年3月11日の東日本大震災発災後に受け入れた患者の治療を引き続き行った。その他、福島からの転院希望患者、避難者の救急搬送にも対応した。 ▼東日本大震災の被災地に、DMATや日赤看護班等を派遣し、医療救護活動を行った。	A	・自己評価のとおり ・東日本大震災では、医療救護活動等に大きく貢献している。
・災害発生時に備え、地域の医療機関、医師会、自治体等が参加する災害医療訓練に年1回以上参加するとともに、地域の医療従事者を対象とした災害医療研修を実施する。	●DMAT技能維持研修をはじめ、計8回の災害医療対策訓練等に延べ44名の日本海総合病院の職員が参加した。 ●日本海総合病院で災害時受入訓練(机上)を行い、50名の職員が参加した。 ●国補助などを活用し、衛星携帯電話などの災害医療対策用機器を整備した。	◆災害発生時に備え、地域の医療機関、医師会、自治体等が参加する災害医療訓練に年1回以上参加するとともに、地域の医療従事者を対象とした災害医療研修を行ったか。	A	▼各種災害医療訓練に積極的に参加し、他の関係機関との連携を強化するとともに、災害派遣従事者のレベルアップに努めた。 ▼当地域で大規模自然災害が発生した場合の対応について、日本海総合病院でマニュアルを作成した。 ▼日本海総合病院の救急災害対策委員会に、山形県や消防などの関係機関からも委員として参加し、情報の共有化を図っている。	A	・自己評価のとおり
③政策医療の実施						
・がん・脳卒中・糖尿病・小児医療・周産期医療などの高度専門医療についても、民間の医療機関では導入が困難な技術、先進的な技術を先駆けて導入するなど、地域の中核的医療機関としての役割を果たしていく。	●先進医療の届出を行い、大腸がんに対する「内視鏡的大腸粘膜下層剥離術」を先駆けて導入し、患者の身体的負担の少ない専門的治療を行った。 ・平成23年度は、35名の患者に治療を行った。 ●「がん」の早期発見・早期治療、生活習慣病対策および地域住民の健康維持のため、日本海総合病院で1泊2日人間ドックを行った。 ・平成23年度は111名の利用があった。	◆がん・脳卒中・糖尿病・小児医療・周産期医療などの高度専門医療について、先進的な技術を先駆けて導入するなど、地域の中核的医療機関としての役割を果たしてきたか。	A	▼先進医療である「内視鏡的大腸粘膜下層剥離術」を導入した。患者の身体的負担を軽減し、高度な専門技術で確実な治療を行った。 ▼日本海総合病院の高度な機器等を活用して、人間ドックを実施し、地域住民の健康維持に寄与した。	A	・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等						
			判定								
<p>・これまで酒田医療センターにおいて運営してきた老人性認知症センターについては、日本海総合病院に診療科が移行したことに伴い、「認知症疾患医療センター」として新たに開設し、老人性認知症患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施していく。</p>	<p>●日本海総合病院に「認知症疾患医療センター」を新たに開設し、老人性認知症患者の専門医療相談、鑑別診断等について充実を図った。 ・平成23年度の相談件数は、新規相談件数が645件、継続相談件数が300件であった。</p>	<p>◆日本海総合病院において「認知症疾患医療センター」を新たに開設し、老人性認知症患者の専門医療相談、鑑別診断等を継続して行ってきたか。</p>	A	<p>▼酒田医療センターから引き続き、日本海総合病院に「認知症疾患医療センター」を開設し、認知症治療に努めた。</p>	A	・自己評価のとおり					
④優れたスタッフの確保											
a) 優秀な医師の確保と医師の負担軽減											
<p>・高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化や教育研修の充実により、優秀な医師の育成、確保に努める。</p> <p>・臨床研修医の受け入れについては、教育研修体制の充実を図り臨床研修医及びレジデント（専門分野の研修医をいう。）の受け入れに努める。</p> <p>・医師の負担の軽減により、医師確保と定着化を促進するため、医師事務補助など医師を支援する職種の拡充等を図る。</p>	<p>●高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化を図った。</p> <p>●教育研修体制の充実を図り、臨床研修医及びレジデント（専門分野の研修医をいう。）の受け入れを行った。 ・日本海総合病院での受け入れ数は、臨床研修医が14名、レジデントが12名であった。</p> <p>●日本海総合病院において、医師の負担の軽減を図るため、各病棟などに医療クラーク60名を配置した。</p>	<p>◆大学等関係機関との連携の強化が図られたか。</p> <p>◆臨床研修医の受け入れについては、教育研修体制の充実を図り臨床研修医及びレジデントの受け入れに努めたか。</p> <p>◆医師の負担軽減を促進するため、医師事務補助などの拡充を行ったか。</p>	A	<p>▼山形大学及び東北大学との連携が図られている。</p> <p>▼当院の医師の8割が臨床指導医となっている。指導医の多さから、充実した研修内容となっている。当院を希望する臨床研修医またはレジデントは、近年増加傾向にある。</p> <p>▼診断書作成のために医療クラークを増員した。その他、診療補助だけでなく、医師が行っている研究のデータ入力などにも活用し、医療クラークの業務拡充を行った。</p>	A	・自己評価のとおり					
b) 看護職及び医療技術職の専門性の向上											
<p>・より質の高い看護を提供するため、計画的に認定看護師等の資格取得を促進する。</p> <p>・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図る。</p>	<p>●より質の高い看護を提供するため、院外講師を招聘して5回の研修会を開催し、延べ195名が参加した。 ・平成23年度は、1名が救急看護認定看護師の資格を取得した。 ・看護補助者について、日本海総合病院で81名、酒田医療センターで15名配置し、看護師が本来業務に専念できるよう体制整備を図った。</p> <p>●薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図った。</p>	<p>◆より質の高い看護を提供するための方策を講じたか。</p> <p>◆計画的に認定看護師等の資格を取得したか。</p> <p>◆薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、専門技能の向上が図られたか。</p>	A	<p>▼院外講師を招聘し、研修会を開催した。 ▼クリニカルラダーに基づいて、体系的な研修を継続して行っている。</p> <p>▼救急看護認定看護師を1名養成した。</p> <p>▼PET/CTの稼働に備え、他病院を視察するなどして知識と専門技術の習得・向上に努めた。</p>	A	・自己評価のとおり ・資格取得後のインセンティブの付与については十分に配慮されたい。					
⑤地域連携の推進											
<p>・庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担と連携を強化し、地域医療機関との紹介率・逆紹介率の向上等に取り組む。</p> <p>・平成23年4月1日から稼働する「ちようかいネット」（日本海総合病院の電子カルテ情報（診療録、処方、注射、検査、画像、サマリーなど）を、インターネットを利用して地域内の病院、一般診療所、歯科診療所、薬局、介護・福祉施設などで閲覧できるように情報提供するとともに、ファイル化された診療情報を病院や診療所等の相互間で送受信できるシステム）に加入し、地域の医療施設と診療情報の共有化を図る。</p> <p>・がん、脳卒中、心筋梗塞などの地域連携クリティカルパスを作成し、「ちようかいネット」を活用した運用を行なう。</p>	<p>●庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担と連携を強化し、地域医療機関との紹介率・逆紹介率の向上等に取り組んだ。 ・日本海総合病院における平成23年度の紹介率は62.3%、逆紹介率は46.3%であった。</p> <p>●平成23年4月1日から稼働した「ちようかいネット」に加入し、地域の医療施設と診療情報の共有化を推進した。（日本海総合病院の電子カルテ情報を、連携機関にインターネットを利用して公開するシステム）</p> <p>●がん対策基本法に定める「5大がん」の地域連携クリティカルパスを作成した。 ・平成23年度の適用件数は、肺がん4件、大腸がん16件、肝がん0件、乳がん7件、胃がん14件であった。 ●大腿骨頸部骨折地域連携パスを、111名の患者に適用した。</p>	<p>◆庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との役割分担と連携を強化し、紹介率・逆紹介率が向上したか。</p> <p>◆「ちようかいネット」を活用し、地域の医療施設と診療情報の共有化が図られたか。</p> <p>◆がん、脳卒中、心筋梗塞などの地域連携クリティカルパスを作成し、「ちようかいネット」を活用した運用を行なったか。</p>	S	<p>▼年平均で紹介率60%以上、逆紹介率40%以上を達成することができた。</p> <p>▼「ちようかいネット」を活用し、他の医療機関だけでなく、介護老人保健施設や調剤薬局にまで拡大し、情報の共有化を行った。</p> <p>▼「5大がん」の地域連携クリティカルパスを作成し、運用を行った。 ▼大腿骨頸部骨折地域連携パスを、「ちようかいネット」上で運用を行った。</p>	S	・自己評価のとおり					
<p>・平成23年4月1日から稼働する「ちようかいネット」（日本海総合病院の電子カルテ情報（診療録、処方、注射、検査、画像、サマリーなど）を、インターネットを利用して地域内の病院、一般診療所、歯科診療所、薬局、介護・福祉施設などで閲覧できるように情報提供するとともに、ファイル化された診療情報を病院や診療所等の相互間で送受信できるシステム）に加入し、地域の医療施設と診療情報の共有化を図る。</p> <p>・がん、脳卒中、心筋梗塞などの地域連携クリティカルパスを作成し、「ちようかいネット」を活用した運用を行なう。</p>						<p>●がん対策基本法に定める「5大がん」の地域連携クリティカルパスを作成した。 ・平成23年度の適用件数は、肺がん4件、大腸がん16件、肝がん0件、乳がん7件、胃がん14件であった。 ●大腿骨頸部骨折地域連携パスを、111名の患者に適用した。</p>	<p>◆がん、脳卒中、心筋梗塞などの地域連携クリティカルパスを作成し、「ちようかいネット」を活用した運用を行なったか。</p>	A	<p>▼「5大がん」の地域連携クリティカルパスを作成し、運用を行った。 ▼大腿骨頸部骨折地域連携パスを、「ちようかいネット」上で運用を行った。</p>	A	・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定	自己評価		
<p>・地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の提供や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努める。</p>	<p>●地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の提供や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスを提供した。</p>	<p>◆地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努めたか。</p>	A	<p>▼介護・福祉機関との連携を強化するとともに、充実した体制で積極的な退院支援を行うことにより、医療から介護・福祉へとシームレスなサービスを提供することができた。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
⑥クリティカルパスの活用						
<p>・効果的な医療を提供し、患者負担の軽減にも寄与するため、電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成及び適用を進める。</p>	<p>●効果的な医療を提供し患者負担を軽減するため、電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成及び適用を推進した。 ・平成23年度の実績は、パス登録件数が193件(うち新規作成33件)、疾患別登録件数が115件(うち新規作成12件)、適応件数が6,620件、適応率が41.3%だった。</p>	<p>◆電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成及び適用を促進したか。</p>	A	<p>▼平成21年4月からのDPC導入にともない、積極的にクリティカルパスを作成し、電子カルテでの運用及び適用を推進した。院内で目標としていた適応率40%をクリアすることができた。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
⑦庄内地域における医療水準の向上						
<p>・地域の中核的な医療機関として、山形大学、東北大学、公立大学法人山形県立保健医療大学、県立病院などの人材交流や研修を通して質の高い医療従事者の育成を推進し、庄内地域における医療水準の向上を進める。</p>	<p>●地域の中核的な医療機関として、山形大学、東北大学、公立大学法人山形県立保健医療大学、県立病院などの人材交流や研修を通して質の高い医療従事者の育成を推進した。 ●鶴岡市立庄内病院との連携強化を図るために、相互に医療講演会を実施した。</p>	<p>◆医療水準向上のため、大学等や県立病院などの人材交流や研修を実施したか。</p>	A	<p>▼山形大学及び東北大学を中心にして、人材交流を行い医療水準の向上に努めている。 ▼庄内地域の医療水準向上のため、鶴岡市立庄内病院と情報交換をはじめ、連携の強化を図った。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
<p>・平成23年度から2年間、山形大学医学部先端分子疫学研究所の分室を日本海総合病院内に置き、文部科学省の「グローバルCOEネットワーク事業」として、地域の疫学研究を推進するため、調査活動、講演会等の開催等に協力する。</p>	<p>●平成23年度に、山形大学医学部先端分子疫学研究所の分室を日本海総合病院内に置き、「グローバルCOEネットワーク事業」(文部科学省)による地域の疫学研究活動に協力した。</p>	<p>◆山形大学医学部先端分子疫学研究所の研究活動に協力したか。</p>	A	<p>▼日本海総合病院に研究所の分室を設置するとともに、講演会の支援を行うなど協力した。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
⑧住民意識の啓発						
<p>・地域住民を対象としたセミナー、広報などを積極的にを行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努める。</p>	<p>●地域住民を対象としたセミナー、広報などを積極的にを行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。 ・患者、地域住民向けの広報誌「あきほ」を年間4回発行して、病院機構の様々な情報提供に努めた。 ・酒田市民を対象とした出前講座や地域住民を対象とした説明会などに参加し、病院の運営状況全般について説明した。 ・病院機構と2病院のホームページについては、最新の情報提供を図った。 ・地域がん診療連携拠点病院として、地域住民を対象に講演会等を開催し、健康に対する意識の啓発・情報提供事業を行った。</p>	<p>◆地域住民を対象としたセミナー、広報などを行ったか。</p>	A	<p>▼広報誌「あきほ」を年4回発行し、病院からの情報発信を行った。 ▼ホームページのリニューアルを行い、見やすいように整備し、同時に情報の内容の充実を図った。 ▼地域がん診療連携拠点病院として、毎年、地域住民を対象として公開講座を実施してきた。平成23年度は「大腸がん」について院外講師による講演を行い、啓発活動を行った。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
<p>・他の機関が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等への講師派遣についても積極的に行う。</p>	<p>●他の医療機関が行うセミナー等への職員派遣について協力した。</p>	<p>◆他の医療機関が行うセミナー等へ講師を派遣したか。</p>	A	<p>▼要請に応じて、講師を派遣している。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
(3) 患者・住民サービスの一層の向上						
<p>・日本海総合病院への診療科の集約に伴う、外来、検査、手術、会計等が集中されることから、外来診療システムの改善及び診療時間の弾力化、待ち時間の短縮等に取り組む。</p>	<p>●自動再来受付機をエントランスホールに1台増設、救命救急センター入口に2台を新たに設置した。</p>	<p>◆日本海総合病院において、外来診療システムの改善及び診療時間の弾力化、待ち時間の短縮等に取り組んだか。</p>	A	<p>▼日本海総合病院において、受付時の混雑と利便性を図るため、自動再来受付機をエントランスホールに1台増設、救命救急センター入口に2台新設した。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>
<p>・意見交換の場を設けること等により、患者・住民の目線に立ったサービスの向上の取組みを進める。</p>	<p>●「患者の声」の院内掲示及び病院ボランティアとの意見交換会を行い、患者・住民の目線に立ったサービスの向上に取り組んだ。</p>	<p>◆意見交換の場を設け、患者・住民の目線に立ったサービスの向上に取り組んだか。</p>	A	<p>▼1つ1つの「患者の声」に回答し、すぐに改善できるものは速やかに対応した。</p>	A	<p>・自己評価のとおり ・悪い意見だけでなく、良い意見も多いようである。平成24年度以降、顧客(患者)満足度の調査を実施したほうが良い。</p>
<p>・ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を図る。</p>	<p>●ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を図った。</p>	<p>◆ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を図ったか。</p>	A	<p>▼ホームページのリニューアルを行い、見やすいように整備し、同時に情報の内容の充実を図った。</p>	A	<p>・自己評価のとおり</p>

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定			
<p>・日本海総合病院において平成20年度から実施した重症心身障がい児(者)短期入所事業については、在宅療養をされている重症心身障がい児(者)が家族の疾病等の理由により介護できない場合に日本海総合病院の空ベッドを利用して一時的に入所サービスの提供を行う事業であり、そのサービスの継続を図る。</p> <p>・日本海総合病院の院内保育所を増築して、酒田市の病児・病後児保育事業を受託し、病児・病後児の「保育と看護」を医療隣接型で実施することにより、地域の子育て支援と児童の健康、安心の向上を図る。(平成23年9月頃開設予定)</p>	<p>●日本海総合病院において、平成20年度から継続して重症心身障がい児(者)短期入所事業を行った。</p> <p>●地域の子育て支援と児童の健康、安心の向上を図るため、日本海総合病院の院内保育所を増築して、平成23年11月15日から病児・病後児の「保育と看護」を医療隣接型で実施し94名の利用があった。</p>	<p>◆重症心身障がい児(者)短期入所事業を継続したか。</p> <p>◆日本海総合病院の院内保育所を増築して、酒田市の病児・病後児保育事業を受託し、病児・病後児の「保育と看護」を医療隣接型で実施したか。</p>	A	<p>▼庄内地方唯一の施設であり、障がい児(者)をもつ家族の負担軽減が図られるよう、継続して事業を行った。</p> <p>▼酒田市の事業を受託して実施した。平成23年度は4.5ヶ月間の稼働であったにも関わらず、延べ100名弱の利用があった。</p>	A	・自己評価のとおり
(4) 統合再編に関する住民への広報						
<p>・酒田医療センターの施設整備期間中における、入院案内、駐車場確保、出入口の変更等についても住民への広報を進めていく。</p>	<p>●酒田医療センターの施設整備期間中における、入院案内、駐車場確保、出入口の変更等については、酒田市広報及び広報誌「あきほ」で住民への周知を行った。</p>	<p>◆酒田医療センターの施設整備期間中において、入院案内、駐車場確保、出入口の変更等について住民への広報を行ったか。</p>	A	<p>▼利用者に迷惑をかけないように、事前に酒田市広報及び広報誌「あきほ」で周知を図った。</p>	A	・自己評価のとおり
(5) 法令等の遵守と情報公開の推進						
<p>・法令等に基づき、医療従事者としての行動規範、倫理等について規則化し、所要の研修を行う。</p> <p>・インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ、レセプト等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもと、県の機関に準じて適切に対応する。</p>	<p>●法令等に基づき、医療従事者としての行動規範、倫理等について規則化し、研修体系について検討を行った。</p> <p>●インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもと、県の機関に準じて行った。 ・平成23年度までの実績は、日本海総合病院が32件、酒田医療センターが4件だった。</p>	<p>◆法令等に基づき、医療従事者としての行動規範、倫理等について規則化し、所要の研修を行ったか。</p> <p>◆医療情報の開示請求について、適切に対応したか。</p>	B	<p>▼個人情報及び電子カルテ情報の取り扱いについて、職員採用時に研修を行った。</p> <p>▼県の取り扱いに準じて、適切に対応した。</p>	B	・自己評価のとおり
2 施設設備整備						
(1) 統合再編に係る施設整備						
<p>酒田医療センターの増築・改修工事については、平成21年度に中期計画を変更したことにより、療養病床として整備を図るとともに、回復期リハビリテーション病棟、デイケア施設の整備する計画としている。平成22年度に基本・実施設計を行い、増築・改修工事の発注を行った。 平成23年度からは2年間の予定で増築、改修工事に着手する予定である。</p>	<p>●酒田医療センターの増築・改修工事に着手した。</p>	<p>◆酒田医療センターの増築・改修工事に着手したか。</p>	A	<p>▼酒田医療センターの増築・改修工事に着手した。東日本大震災に関連して材料調達に影響があったため、工期に遅れが生じたが、平成24年度の施設整備完了には影響のない見込みである。 ▼工事の間、西4および西5病棟を療養病棟として活用し、入院治療を行った。</p>	A	・自己評価のとおり
(2) 高度医療機器の計画的な更新・整備						
<p>・高度専門医療等の充実のため、平成23年度は以下のとおり高度医療機器の更新・整備を行う。</p> <p>・高度医療機器の更新・整備に当たっては、稼働率や収支の予測を十分に行った上で進めるものとする。</p>	<p>●高度専門医療等の充実のため、高度医療機器の更新・整備を行った。</p>	<p>◆高度専門医療等の充実のため、機器の更新・整備が行われたか。 ◆診療科の意見及び費用対効果を踏まえて実施されたか。</p>	A	<p>▼医療器械等選定委員会で、診療科からヒアリングを行い、費用対効果も含めて機種等の選定を行った。 ▼医療器械等選定委員会の結果を踏まえて入札等の競争で購入し、計画的に更新・整備を行った。</p>	A	・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート (案)

平成23年度・年度計画	平成23年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定			
3 患者数の見込みと収支計画						
平成23年度における患者数の見込みと予算、収支計画、資金計画については以下のとおりとする。(患者数の見込み及び収支計画の詳細は、年度計画(資料6)のとおり。)	●別紙の財務諸表のとおり。	◆経常収支比率100%以上を達成したか。	S	▼経常収支比率で102.4%、営業収支比率で100.1%を達成した。	S	・自己評価のとおり ・4年間継続して達成。高く評価する。
		◆全国の黒字病院の平均値である、人件費比率52.0%、材料費比率24.8%、経費比率17.3%以下を達成することができたか。	S	▼人件費比率45.4%、材料費比率23.4%、経費比率15.6%であった。特に人件費比率は、営業収益の増により、大きく前年を下回った。	S	・自己評価のとおり
	●病院機構は、山形県及び酒田市に対して負担する債務の平成23年度分の元利償還を期限までに完了した。	◆平成23年度分の元利償還を期限までに完了したか。	A	▼期限までに完了した。	A	・自己評価のとおり
4 その他業務運営に関する事項						
(1) 就労環境の整備						
日本海総合病院の院内保育所「あきほ保育園」については、24時間保育所の運営の継続と入園定員枠の再増員を図る。	●院内保育所「あきほ保育園」については、24時間保育所の運営の継続と入園定員枠を35名に増員した。	◆院内保育所「あきほ保育園」の運営継続と入園定員枠の再増員を行ったか。	A	▼24時間保育を継続し、入園定員枠を増員した。	A	・自己評価のとおり
院内保育所「あきほ保育園」に別棟の増築を行い、酒田市の病児・病後児保育事業を受託することに伴い、職員の子育て支援の拡充を図る。	●院内保育所「あきほ保育園」に別棟の増築を行い、酒田市の病児・病後児保育事業を受託することに伴い、職員の子育て支援の拡充を図った。	◆酒田市から受託した病児・病後児保育事業を活用し、職員の子育て支援の拡充が図られたか。	S	▼病児・病後児を預かる施設ができ、職員は安心して働くことができるようになり、子育て支援の拡充が図られた。	S	・自己評価のとおり
日本海総合病院の職員駐車場については、患者動向等を勘案して再整備を検討する。	●日本海総合病院の職員駐車場約100台分の拡充を行った。	◆日本海総合病院の職員駐車場について、患者動向等を勘案して再整備を行ったか。	A	▼約100台分の整備を行った。	A	・自己評価のとおり
(2) 酒田市立酒田看護専門学校の開校への支援						
平成22年度から酒田市立看護学校として開校した「酒田看護専門学校」の教育部門を当法人が酒田市より業務委託を受けて実施しているが、今後とも酒田市と連携し当機構の看護職員を対象に看護教員としての育成に努める。	●酒田市立看護専門学校における看護教育業務を病院機構が受託したため、看護教務部を組織化して看護職員を看護学校に常駐させた。また、看護教員を希望する看護師の教職免許取得のための支援を行った。	◆看護職員の適正な配置を行い、「酒田看護専門学校」において教育業務にあたったか。	A	▼日本海総合病院の看護教務部の職員を、「酒田看護専門学校」の教員として常駐させた。 ▼日本海総合病院を実習の場として提供した。 ▼看護教務部以外の職員についても、講師として講義を行っている。	A	・自己評価のとおり